

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

山本博司、榎田高士、吉備登、ほか. 変形性膝関節症に対するはり治療の臨床的効果無作為化比較試験. *関西医療大学紀要* 2011; 5: 7-11. 医中誌 Web ID: 2012027075

1. 目的

変形性膝関節症に対するはり治療の臨床的効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

関西医療大学附属診療所、大阪、日本

4. 参加者

2005年10月から2009年3月までに膝OAと診断された50歳以上の患者43名。

5. 介入

Arm 1: はり治療群21名(男性5名、女性16名、平均年齢69.2±7.5歳)、1名脱落。2週間無治療後、1カ月はり治療。各群とも、週2回、血海(SP10)、曲泉(LR8)、陰陵泉(SP9)、梁丘(ST34)、足三里(ST36)、陽陵泉(GB34)、三陰交(SP6)、太溪(KI3)、懸鐘(GB39)、崑崙(BL60)に15分置鍼。

Arm 2: プラセボはり治療群22名(男性7名、女性15名、平均年齢72.4±5.7歳)、1名脱落。2週間無治療後、1カ月疑似はり治療。治療頻度および治療穴はArm 1と同様とし、はりの刺入は行わず刺入する真似をした。

6. 主なアウトカム評価項目

West Ontario McMaster Universities osteoarthritis index (WOMAC)

7. 主な結果

Arm1において治療前後でWOMAC点数の有意な減少が見られた(差の平均: -7.4, 95%CI, -3.1—11.7, P=0.002)。またArm2においてもWOMAC点数の有意な減少が見られた(差の平均: -6.3, 95%CI, -2.2—10.5, P=0.005)。群間比較では有意差が見られなかった。

8. 結論

はり治療群およびプラセボはり治療群ともに臨床的治療効果がある。

9. 鍼灸医学的言及

記載なし。

10. 論文中的安全性評価

有害事象はなかったとの記載がある。

11. Abstractor のコメント

変形性膝関節症に対する鍼の効果について評価した、意義深い研究である。さらに、被験者への配慮が行き届いた、よく練られた研究デザインである。考察でも言及している通り、群間比較で差がみられなかった理由として、はり治療とプラセボはり治療は同一の経穴を用いたことにより、対照群も効果が現れてしまった可能性がある。今後の研究において、対照群をさらに刺激の少ない方法とした場合に差が現れるのか、検証が望まれる。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19